

KGAニュース

'86秋季号

昭和61年10月1日発行



目次

誇り得るクラブに.....	1	夏季ジュニアゴルフ教室 大成功裡に終わる.....	20
龍ヶ崎カントリー倶楽部理事長 横田 久生			
昭和61年度関東オープンゴルフ選手権競技.....	3	日本ゴルフ協会ルール委員長 浜口 五郎	
観戦記 杉山 通敬・宮元 昭雄			
昭和61年度関東倶楽部対抗決勝競技.....	11	理事会・委員会.....	23
昭和61年度関東ジュニアゴルフ選手権競技.....	16	月例競技成績表(昭和61年度6月・7月).....	25
		月例(8月)、お知らせ.....	26

No.16

理事長インタビュー

誇り得るクラブに

龍ヶ崎カントリー倶楽部 理事長 横田 久生氏

聞き手・KGA広報委員 杉山 通敬

——理事長のゴルフ歴からお聞かせ下さい。

「始めたのは昭和10年ですから、もう50年になります。私の両親はゴルフをやりませんでしたが、外国生活が長かったせいでしょうか、ゴルフに対してそれなりの理解はあったようなんですね。それで私が学校を卒業後、社会人になって間もなくのころ、ゴルフクラブを一式買ってくれたわけです。ゴルフは健康によいスポーツだし、ゴルフ倶楽部は紳士の社交の場でもある。何よりもフェアプレーの精神がよいなどと言って、本人はやらないのにすすめてくれたわけです。親はありがたいものですね」

——昭和10年のころと言いますと、日本のゴルフ界も草創期から、いわば“青年期”に入っていたと思いますが、当時のゴルフはどんなものでしたか。

「そうですね、私達の年代の者はいわば、儒教倫理の真っただ中で育ったわけですから、子供の頃から厳しい規けを受けていたはずなんんですけど、それでもプレーを楽しむというよりはマナーやエチケットの厳しさにいつもビリビリしていたものです。ゴルフは紳士のスポーツだから、技術よりもマナーを身に付けなさい、とね。うっかり打数を間違えたりすると大変ですから、打つたびにズボンの左のポケットから右のポケットにティを一本ずつ移しておき、バットが終るところぞり数えたりして……(笑)。しかし、いま考えてみると、当時のメンバーの人達はビジターに対してもキチンとした態度で接していましたね」

——同じゴルファーとして共通の意識というか、仲間意識みたいなものがあったのでしょうか。

「自分達の仲間のメンバーが連れてきたゲストですから、それなりの敬意をもって接していました。その点、最近はビジターに対する態度といいますか、考え方がだいぶ、雑になってきたような気がしますね」



——当時は先輩ゴルファーがこぞって“新米”を継げるような風潮があったようですから、そういうものがゲストの接し方にも出てきたのでしょうか。

「なにせまだ“若僧”でしたから、なんにつけても余裕などもてませんでしたよ。ただ、紳士の集まる“場”として、メンバー、ビジターの別なく、今日一日、居合せたゴルファーみんなでプレーを楽しもうという雰囲気はありましたし、その雰囲気をこわさないように規けられたのです」

——ところで『龍ヶ崎』の理事長になられたのは?

「昭和56年10月からです。河田理事長、本田理事長について三代目です。初代の河田理事長は当時の関係者の皆さんと一緒に、クラブ設立に情熱をそそられましたし、二代目の本田理事長は社会人野球など幅広くスポーツ界でも活躍された名理事長でした。このお二人が万全のクラブ運営をされましたので、お陰様で私は樂をさせて頂いております。クラブ運営の基本はまず、会員の皆さんと充分に話し合いを

理事長インタビュー

して進めていくことだろうと思っていますから、これを中心にして先輩がつくってくださった良い伝統を守り、次の世代にバトンタッチしたいと考えています。

——俱楽部とはどういうものか、という共通の考え方、流行の言葉で言いますと、コンセンサスですか、それがないと会員がバラバラになってしまうでしょうね。

「そのことについて、以前、感じたことがあるんです。かなり前になりますが、NHKの招きでジャック・ニクラウスが来日したことがありますね？　そのテレビ出演のとき、アナウンサーから“ニクラウスさん、あなたとゴルフの出会いは？”と、インタビューされた。そしたら“私の父が、たいへん名譽なことに地元の或るゴルフクラブのメンバーであったので……”という前置きをしていました。あちらではゴルフクラブのメンバーというのは“名譽なこと”と表現するほど、ステータスの高いものなのだということを再認識したわけです。欧米とは歴史も文化も、或は風土的にも大きな違いがありますから、日本のゴルフクラブにいきなり同じものを望んでも無理な面もあると思いますが、それでも、日本のゴルフの歴史も、神戸の六甲に最初のゴルフ場が出来て、85年になるわけです。この辺でゴルフの歴史とか、原点を一度振り返ってみる必要があると思いますね。ゴルフのスピリットの乱れみたいなものを正しい方向に進めるよう、みんなで考えてみたいと思ってます。ま、手近なところでは、それぞのクラブが力を合せて“誇り得べき会員とより良きクラブライフ”というようなモラールアップのスローガンをもって、一人ひとりのゴルファーに根気よく訴えつづけてみるのも一つの方法ではないでしょうかね」

——“龍ヶ崎”は井上誠一さんが円熟期に設計された代表作として、非常に高い評価をされているのですが、開場にまつわるエピソードのようなものがあったら、お聞かせ下さい。

「井上先生は名コースをたくさんお作りになりましたが、なかでも“龍ヶ崎”は思い出に残るコースのひとつであると、生前、身近な方達にもらしておられたようです。昭和32年の春に設計をお願いしまして、33年11月にコースが完成しました。あとで聞き

まして驚いたんですが、レイアウトが先に出来上って、そのレイアウトに適した土地を調達したそうです。そういう意味ではゴルフコースに対する先生の基本理念が貫かれていると思いますね。私には難しいことはよく解りませんけれど、アウトコースとインコースはそれぞれ、敷地内の左右両翼のほうからスタートして、9番と18番のアウト、イン最終ホールはコースの中央部から真直ぐ並んでクラブハウスへ向って帰るレイアウトになっていることとか、グリーンから次のホールのティに向うインターバルなどもプレーのリズムを損わないようにしたとか、設計の意図がキチンと守られていますね」

——“素材”が優れていたというか、井上先生が理想とした地形だったわけですか。

「赤松の林とか自然のアンジュレーションとか、先生の“お目に適った”土地だったのでしょうね。そうした理想的な素材に厳しいバンカーチークとか美しい線をもったグリーンのアンジュレーションなども特色のひとつになっているのですが、実は昭和38年に日本プロゴルフ選手権がここで行われたときに、グリーンの早さが話題になりましたよ。専門家筋からは高い評価を受けましたけど、あまりにも早すぎると、一部メンバーからグリーンキーパーが叱られたそうです。いまは海外でも日本でもプロの試合では早いグリーン、もっと早いグリーン、と注文がつけられているようですが、25年ほど前に、すでに今日のようなパッティング・クオリティを求めて指導しておられた井上先生の“先見の明”といいますか、造詣の深さには敬服してます」

——ところで、理事長ご自身はゴルフをどんなふうにエンジョイされますか。

「残念ながら、ここ数年は足の具合がよくないものですからプレーしてないんです。時々テレビを観ながら、ああ、このコースは素晴らしい。あのホールではひどい目に遭った、と思い出に耽っています。或はゴルフを通じて得た数多くの友人達のことを想い出したりして、最近はもっぱら“我慢のゴルフ”ならぬ、“ゴルフを我慢”しているような状態ですよ(笑)」

競技

昭和61年度 関東オープンゴルフ選手権競技



18番(パー5)A・O共にバーディにギャラリーから大拍手。熱戦に幕を閉じた

火花散らしたA・Oの バーディ合戦

(取材：杉山通敬)

トーナメント史上に残る名勝負だった。最終日、最終組のペアリングは青木功(8アンダー)、尾崎将司(6アンダー)、藤木三郎(4アンダー)だったが、彼らがインに向うころ、5組先でスタートした中島常幸(1アンダー)が13番のロングホールでイーグルを奪い、通算8アンダーになったという情報がフェアウェイに伝播された。その時点での青木のスコアは通算9アンダー、尾崎は8アンダー、藤木はアウトで39を要していたので圈外に去っていたものの、AONの実力者が1打差で鎧を削る展開になった。中島は15番でもバーディを獲ったので、フィールドはさらに騒然とした。

青木と尾崎が同じ組でお互いをマークしながらプレーしている間隙を縫って、中島が漁夫の利を生かして突走の成り行きになった。大会事務局の発表では、この日のギャラリーは4812人ということだったが、AONのエキサイティングなプレーぶりで熱気のボルテージがあがったのだろうか、その数も万余に増幅されたような印象であった。いや、ボルテージが

上ったのはギャラリーばかりではなく、プレーする当の本人たちであった。なんなく、青木と尾崎は燃えたぎるような気迫で、バーディ合戦を演じた。彼らが12番とともにバーでホールアウトして、13番に向うころ、中島は18番をプレー中だったが、三者のスコアは相変わらず、青木と中島が9アンダー、尾崎8アンダーだったから、NがAONに与えた刺激はいささかマグマ的だった。“常幸トント”がAONから油揚げを握手する雲行きになった。敵は本能寺で兵を擧げようとしていたわけである。13番からのAONのバーディラッシュは休火山がにわかに爆発したかのような迫力があり、それがトーナメント史上に残る名勝負をつくり上げたと言えよう。13番から18番までの6ホールで両者が獲ったバーディ数はともに4つずつ、合せて8つである。なにを置いても、そのプレーぶりを語らねばならないところだが、ひとまずは、この名勝負の舞台を装置した“影の演出者”的話を紹介しておきたい。

開催コース『セントラルゴルフクラブ』の西野謙介理事長の話して、以下はその一問一答である。

——今回の関東オープン開催で、もっとも苦心され

た点からまず、聞かせて下さい。

「それはなんと言ってもグリーンですよ。51年の日本オープン後(同コースで開催)、東西36ホールのベントグリーンを全部、枯らしてしまった。そこで52年に鳥取から3万平米のペントを運び20日間で全て張り替えた。いや、張り替える前にグリーンの"床"を全部造りかえたわけです。芝も生きものですから、呼吸もすれば、排便もする。しかし"床"が悪いと、排水がうまくいかないので、人間でいうと便秘する。肥料をやっても蓄積されたままになり、それが炭酸ガスになる。芝の"健康"に悪いわけです。ま、専門的なことはとにかくとして、グリーンを攻めるのがゴルフですから、そのグリーンの状態が悪かったら、正しい攻め方が出来なくなる」

——フェアウェイから正確なショットをすれば止り、パッティングしたらコロがりが早いグリーンというのか理想だとわれます。

「それと"目"のないグリーンです。逆目から打つたらグリーン上でマンボダンスでも踊るるように、ピョンピョン跳ねながらコロがるようでは良いクオリティとは言えませんよ。ここ(セントラル)ではふだんの日でも4ミリに刈っていますからね。平常から短く刈ってるので"目"もなくなり、また短く刈れるように"床"を改造したわけです」

——試合中はどのくらいの長さに刈ったのですか。また、フェアウェイ、セミラフ、ヘビーラフの刈り高はどのくらいにしましたか。

夢を語りグリーンを語るセントラルの西野理事長(左)



— 4 —

「グリーンは2.8ミリ、フェアウェイは2センチ、セミラフは4.5センチ、ヘビーラフは7.5センチ。フェアウェイからのショットにメリットを与えるためにグリーンを良くしなければならないわけですが、じゃ、フェアウェイから打ったショットはどういう止り方をするか、セミラフからだつたらどうか、またヘビーラフからどうか、そういうことがはっきりと出なければなりません。フェアウェイから打ったのにランが多かったり、ラフからなのにピタッと止るようじや、選手のほうもショットのプランというか、読めなくなる。パッティングにしても入る入らないは1センチの"読み"ですよ。1センチ狂っただけで外れる。一流選手、たとえば青木功などはその点、実際に正確な"読み"をする。それと同じようにフェアウェイから打った場合は、どのくらいのランを予測し、セミラフやヘビーラフからだとどの程度、ランするか予測する。そういうものが攻め方やショットプランに関わり合ってくる。ピンの位置とも関係してね」

——プロは"グリーンの勝負"?

「そうですよ。彼らが正しく読んだら、正しく走り、正しく止まるグリーンにしないと、技術の公平なテストはできないですね。フェアウェイから打ったボールはどのくらいよく止まるか、ラフから打ったボールはどのくらいコロがるか、ひとつよく見ておいて下さい」

最終日の朝、西野理事長に大略、以上のようなレポートを語った青木のティショット

競技

日本プロを代表する3人が上位を占めるのも珍しい。青木・尾崎・中島(左から)



クチャーを受けてから、最終組について観戦した。

話しを試合のほうに戻そう。まず13番(538ヤード、パー5)、青木のティショットはフェアウェイ左にあるバンカーの先端右側のラフまで飛んだ。そこからスプーンで第二打を打つたのが、打った場所からはボールの落ちどこが確認できなかった。尾崎のティショットはフェアウェイ右サイドのバンカーに入る。初めウッドを持ったが、アイアンに替え、グリーン右手前にある二つのバンカーの間のラフ。ピンは左奥に立っていた。行ってみると、青木のボールはそのピン手前10メートルほどのところに乗っていた。カップの右へ外したもののがなく2パットでバーディ。10アンダーになる。尾崎はラフからのアプローチをランのあるボールで1.5メートルに寄せ、1パットのバーディ。9アンダー。

14番(412ヤード、パー4)、青木の第1打はフェアウェイを外して右サイドのヘビーラフ。ピンは中央奥に立っていたが、その手前10メートルほどに2オン。第1パットを2メートル近くオーバーさせたが、返しを入れてパー。尾崎の第1打はフェアウェイの右サイド。第2打はグリーンに落ちると同時に止り、2メートルに寄る。それをカップの真ん中から入れ、バーディ。10アンダーで青木と並ぶ。

15番(373ヤード、パー4)、青木の第1打はフェアウェイ左サイド、ギャラリー用のクロス道路の手前。第2打はグリーンに落ちてから、バックスピンのために1メートルほど戻る。約7メートルのパットをカップの右フチに外し、パー。尾崎の第1打は青木より10メートル以上飛んでクロス道路を越したフェアウェイ。第2打は落ちたところから20センチばかり左へ跳ねただけで、2.5メートルに寄る。カップの右へ外して、パー。両者10アンダーのまま。

16番(440ヤード、パー4)、青木の第1打は左の

トロフィーをかかえニッコリする青木

ラフ。第2打はピンの手前に落下し、そのままグリーン奥までコロがる。尾崎は第1打を右のラフへ。第2打はグリーン右側のバンカーを越してグリーンに乗り、やはりランがかなりあったが左寄りセンターに立つピンへ2メートル足らずに寄る。パットは青木から。キャディとともに入念にラインを読む。10メートルの下りスライスラインを正確に読み切って、カップのど真ん中から入れる。気迫十分のパットであった。試合後のプレスインタビューで「読みといい、タッチといい、完璧なパットだった。ああいうパットは1年に数えるほどしかない」と言うほどだった。その「気迫」に負けじと、尾崎も2メートルを入れる。両者11アンダーにスコアを伸ばす。すでに中島は9アンダーで競技を終了していた。これまた試合後に聞いたのですが、まだまだプレーの可能性があると思い、待機していたという。

17番(196ヤード、パー3)、先に打ったのは尾崎で、ピンはグリーンの左奥に立っていたものの、右のバンカーを越えただけで、ロングパットが残る。青木はそれを見て、本人が言うには「押えて」打ち、ピン左奥の1.5メートルにピタリ乗せる。16番のパット同様に、気迫のこもったショットだった。尾崎2パットのパー、青木は入れてバーディ。ここで1打差がつく。ギャラリー、ますます騒然。

18番(601ヤード、パー5)、第1打は青木がフェアウェイや左寄りのセンター、尾崎は右のラフ。セカンドは青木がフェアウェイ左に立つ柵の方向へ打つ。尾崎は2オンを狙うもののグリーン右のバンカーに入れる。グリーンサイドに陣取ったギャラリー

— 5 —

一が興奮しきりといった様子で、AOに拍手と歓声を送る。そして、この“名勝負”にふさわしい“幕切れ”を数分後に迎える。

青木の第3打は楠を取回むようにしたマウンドのヘビーラフからだった。ボールは深い芝の中に沈んでいた。まず試合後の談話を紹介しておこう。

「ピンまでは70ヤードだったけど、グリーンエッジまでは45ヤードだった。ヘビーラフからのショットなので、ボールの落しどころを“読み”ためにグリーンまで歩測した。フェアウェイからだったら、グリーンの真ん中に落せばいいところだけど、ラフだったのでエッジから2メートル先に落し、あとはコロがついていくんだろうと思った。だけど、あの場合、読みだとかなんだとか、言ってる場合じゃない。読んだって、そのとおりいくかどうか分らないもの」

しかし、現実は青木の“読み”どおりに、ボールはグリーンエッジの先、2メートルのところまでキャリーし、そこから約23メートルほどランして、ピンをかきめるようにして、たった40センチのところに止つたのである。これが尾崎に“止め”を刺すショットになった。グリーン右サイドのバンカーからの尾崎の第3打は、4メートルほどショートした。1打リードする青木は40センチのバーディチャンスに寄せていたから、たとえ尾崎が4メートルを入れてもブレーオフの可能性は少ない。しかし、最後の望みを託すようにして、それを入れた。そして、青木も入れた。青木13アンダー、片や12アンダー。

12番を終った時点では、9と8だったアンダーが、



このバットが青木優勝を決めた。16番(バーディ)、尾崎は2打目ピン左上2m、青木は左奥10mスライスライン「入れ!!」と大声を上げ、ナイスバーディ

その後4つずつバーディを獲り合って、優勝争いだった。

「こいつ！ 死んだふりして、おどかすんじやねエよ」

グリーンサイドにいた中島に向って、青木がコブシを振り上げて追っていた。なお、ベストアマは5アンダーの野上浩一(日大)。閉会の挨拶で細川護貞理事長も言っておられたが、将来が楽しみな選手である。

ギャラリースタンドで拾った 大会の話題から

(取材：宮元昭雄)

大会を盛りあげた中島選手の功績

闘志をみなぎらせ勝負をかけた時の男の姿は何よりも美しい。数々のドラマを演ずるトッププロのその一人一人の表情はテレビを通じて全国の茶の間に直送されたが、『久し振りにハイ・レベルな息詰まる好試合を見た』と異口同音にゴルフ・ファンの多くは満足気によく語っていた。

たしかに近年ない大熱戦であり特にA・Oの対決に加えて最終日、死んだ筈のお富さん……ではないが、中島の猛チャージにギャラリーはわきに沸いた。

スタート前からA・O両者はその対決意識をあらわに出し、バターの練習所でも遠く左右に離れたままで、意識的に近づくことを避けている二人の姿にギャラリーたちにはたまらない興奮を覚えたものだ。

執念の18H、予想もつかないしかも一進一退を続ける両雄の死闘、それは豪打や美技をおりませて繰りひろげたまさに日本を代表する宿敵同士の熱い戦い、手に汗を握る激突に観客は満足だったに違いない。

しかし本大会を盛りあげた立役者はなんといっても中島選手だったかも知れない。

二日目、アマチュアの中でも屈指の豪打を誇る川岸良兼(日大2年)と回って『右の手首をおかしくしたよ』と嘆いていた中島が、三日目それも死に体(+3)から猛追して(41位から16位)トップの青木との差7ストロークまで迫ったその迫力、誰の目にもA・Oの対決で勝負あったと見られていただけに最終日の人間技では考えられない超ド級の猛チャージとその壮絶な爆発力には万余のギャラリーはただア然と驚

競技

くのみだった。

一挙にV圈に突入した中島を追って各紙のカメラマンたちは大慌て、ましてや中島の急追を知ったA・Oの顔。『いったいどうなってんの、あの人は?』と口でこそ茶羅化してはいるものの内心は両者とも微妙なプレッシャーを感じていた。

結果的にはコース・レコードの65で回った中島の追撃もあと一步と届かなかったが、最終ホールをホール・アウトしたところで、『二人のどちらかが-11になるまで僕はここを動かないぞ』とギャラリースタンドの最前列にドッカと座り込んでの観戦。さすが王者中島らしい風格にギャラリーたちは暑さを忘れてのヤンヤの声援を送っていたが、日本を代表するA・O・Nの三強揃い踏み、久し振りのエキサイティングな試合に満足したファンの熱い声援がいつまでも響いていた。



スタンドの陰にドッカと腰をおろして観戦する中島選手

キャディーさんは大変な仕事です。

ハウス・キャディーと専属の帶同キャディーとどちらが有利かという論議がスタンドで話題しきり。13*近くもある特大バッグを担いで炎天下を4日間も動き回る。担ぐだけなくグリーン上ではパッティングのラインまで読む手伝いをしなくてはならない。もしそのラインの読み方に寸分の狂いでもあろうものなら直接選手の成績に影響することになりかねない。だから責任を感じて中には泣き出すキャディーもいる始末だ。

アメリカのツアーでは殆んどのプロが自分の専属キャディーを帯同する。日本ではA・O・Nのトップクラスがそれぞれ専属キャディーを帯同するケース

が見られるが、それも最近になっての話であり、殆どの試合は開催コースのキャディーを“どうぞ”というわけである。より神経質になりがちな試合だけにキャディーと選手の呼吸がピッタリ合うことが何よりも大切なことだが、どちらが有利かということから見れば一概には言い切れないむずかしさがあるのかも知れない。

セントラルのキャディーさんの中でもベスト・テンに入るベテランクラスになると、芝目やラインを読む力もカップに対して1cmの狂いもないほど正確に読み切る者ばかりだという。

とくにセントラルのようにグリーンに微妙なアンジュレーションがあるところでは一般的にはハウスキャディーの方が有利だと圧倒的支持を受けていたが、いくら正しく教えられても当の選手本人が打ち切られなければ役立たずというわけ。皮肉にも今回の上位入賞者が自前のキャディーだったということは実力の違いということだけで片付けてよいものかどうか。

尾崎選手のキャディーをつとめた水畠義仁君はゴルフ歴はまだ2年足らずだという。青木選手を支えた渡辺光久君などは大会の4日間は飯もろくろのどを通らなかったと、その疲れを口にしていたが、いつの日か彼らも一流のプロゴルファーを目指しての修業の日々と思えば13*の重さなどなんともないという。

久し振りに老練村上選手がスコアボードを賑わしてくれた。ハウスキャディーの宮内とし子さんは昭和49年の日本オープンのとき村上選手について以来これで連続4回目だというベテラン。調子の良い悪戦上選手についたキャディーの宮内とし子さん



競技



同級生の小達君をキャディーに頼み息もたりの野上選手

は選手の後姿を見るだけで判るという。ラウンド中は選手の考えていることを早く見抜いて行動をするように心がけたという。『4日間はまるで夫婦同然、泣いたり笑ったりでナーバスになったときのお手伝いが一番苦労でした。試合が終って疲れがドッと出るでしょうね』と明るくキビキビとした美人キャディーさんの答えがほほえました。

ベストアマに輝いた野上浩一選手のキャディーをつとめた小達敏昭君(日大1年)は細い体をエビのように曲げながらの奮戦、猛者連中に交じってさわやかな18才の2人の少年コンビが堂々5位入賞を果した快挙に嵐のような拍手が送られていたが、美人女優(故夏目雅子)を姉に持つ小達君、『ちっとも心配しませんでした。野上のやつ、生きた球を打ってましたから』と。

近い将来、アメリカのようにキャディー専業の職業が出来ることだろう。男性がいいのか女性を好むのかは別として、これから的新人類の世代にはこうしたアクティブな世界で華々しくスポットライトを浴びたいと思う若者が増えつつある時代だけに、やがてはキャディーが目を楽しませてくれるような時代がやってくるのもう遠くはないような気がするのである。

それにしても『キャディーさん』は大変な仕事です。グリーン作りの夢と哲学

白いパンサーの砂、緑のペント・グリーンとのコントラストは実にあざやかで美しい。テレビで観戻したファンが一様にその美しいコースの造形に感動とは違ったゴルフへの憧れを持ったことだろう。

今や日本のゴルフ・コースも高麗グリーンからペントグリーンの時代へと大きく変転しつつある。

ペントが日本の気候風土にマッチしているのかも知れない、いや欧米のアートーナメントをテレビで見てそのグリーンの美しさに感嘆したからだといふ人もいる。いずれにしてもゴルフの関係者はいかにクオリティーの良い芝の状態を維持させるかということに自らの夢を託して日夜研鑽につめているのである。

滑らかなすべり、順目や逆目を必要以上に考えないで済む芝の仕上げ、正確なショットをすれば必然的にアドバンテージが与えられ、逆にミス・ショットをすればそれがペナルティとなる自然の法則をグリーン作りにとり入れる。今やトーナメントで争うトップ・プロたちを問わず一般的のゴルファーの中にもグリーンはドライバーによる飛距離を争う醍醐味とは異なるゴルフの戦略度の高いターゲットを云々するような時代になって来ているのである。ゴルファーの感性が100%にじみ出るものがあるとすれば、それはパットかも知れない。だから関東オープンの上位争いで見せたA・O・Nのパットの妙技は、多くのギャラリーをうならせ、そしてそのまま勝利につながったともいえよう。

スタンドのファンは一瞬の静寂の中から割れるような歓声がどよめきとなってコースを揺るがすとき、それは一点を集中する男の燃えるような目とその飽くなき勝利への意欲を果した姿に共感を覚えるものだ。

美しいグリーンは見る側にも大変楽しいものなのである。



(撮影：片山晴美・石川博英)

昭和61年度 関東オープンゴルフ選手権競技成績表

参加者 146名 9月4日本日～9月7日(日) 於：セントラルゴルフクラブ

順位	氏名	所属	第1ラウンド		第2ラウンド		第3ラウンド		第4ラウンド		合計	
			アウト	イン	アウト	イン	アウト	イン	アウト	イン		
優勝	青木 功	日本電建	37	35	72	35	34	69	35	35	70	36 32 68 279
2	尾崎 将司	日東興業	36	35	71	37	31	68	37	37	74	35 32 67 280
3	中島 常幸	美津濃	38	34	72	37	40	77	34	35	69	32 33 65 283
4	尾崎 健夫	日東興業	37	33	70	37	37	74	37	36	73	38 31 69 286
5	東 聰	成田スプリングス	36	36	72	40	35	75	35	37	72	35 33 68 287
5	*野上 浩一	日大	37	36	73	38	33	71	36	35	71	35 37 72 287
7	鈴木 弘一	美野原	40	35	75	36	37	73	34	37	71	34 35 69 288
7	川俣 茂	ヤマ商物産	37	35	72	35	35	70	35	39	74	34 38 72 288
9	岩下 吉久	藤沢ジャンボ	36	34	70	37	35	72	40	34	74	37 36 73 289
9	河野 和重	程ヶ谷	37	35	72	37	37	74	37	34	71	37 35 72 289
11	藤木 三郎	合同酒精	38	38	76	35	37	72	35	32	67	39 36 75 290
11	謝敏 男	鳳凰	36	36	72	36	37	73	36	39	75	38 32 70 290
11	青木 基正	マルマンゴルフ	38	36	74	34	38	72	39	34	73	37 34 71 290
11	泉川 ピート	ヨネックス	35	37	72	36	36	72	38	33	71	38 37 75 290
15	尾崎 直道	日東興業	37	36	73	32	38	70	38	36	74	38 36 74 291
15	新井 規矩雄	アデランス	38	34	72	36	34	70	35	39	74	38 35 73 291
15	渡辺 司	東ノ宮	37	36	73	37	35	72	40	34	74	36 36 72 291
15	村上 隆	殖産住宅	36	34	70	33	37	70	39	36	75	40 36 76 291
15	川村 正巳	衣笠城址	36	37	73	36	37	73	34	35	69	39 37 76 291
20	湯原 信光	フーリー	37	36	73	36	34	70	40	35	75	40 34 74 292
20	福本 太成	一間	38	36	74	39	36	75	38	36	74	34 35 69 292
20	栗原 孝	武蔵蔵	40	35	75	38	36	74	35	37	72	35 36 71 292
20	中山 長太郎	長嶋太郎	37	36	73	33	34	67	38	38	76	39 37 76 292
20	池田 富茂	岡浜園	40	35	75	37	37	74	36	36	72	37 34 71 292
25	大町 昭義	赤城国際	38	36	74	36	35	71	38	34	72	37 39 76 293
25	新垣 善美	フーリー	36	37	73	40	36	76	35	35	70	37 37 74 293
27	飯合 順	日東興業	37	35	72	36	40	76	37	39	76	36 34 70 294
27	川田 敏晴	フーリー	35	37	72	39	36	75	36	35	71	41 35 76 294
27	岩崎 隆	大熊海国際	38	37	75	33	35	68	36	36	72	42 37 79 294
27	*阪田 哲	袖ヶ浦	38	33	71	40	34	74	39	38	77	36 36 72 294
27	*芹沢 大介	鳥山城	38	36	74	37	35	72	39	33	72	40 36 76 294
32	磯崎 功	都留	40	35	75	36	36	72	38	37	75	36 37 73 295
32	並木 俊	フーリー	38	36	74	37	38	75	36	37	73	39 34 73 295
32	*川岸 良兼	鳥山城	39	39	78	34	32	66	39	39	78	38 35 73 295
35	長谷川 勝治	船橋	39	38	77	36	36	72	39	37	76	33 38 71 296
35	船川 勝宏	フーリー	37	36	73	41	37	78	39	33	72	38 35 73 296
37	横島 由一	JUN	39	35	74	38	39	77	38	37	75	38 33 71 297
37	芹沢 信雄	富士平原	37	33	70	35	38	73	40	40	80	37 37 74 297
37	中川 泰	三島Gコース	36	37	73	39	38	77	36	37	73	38 36 74 297
37	野口 茂	浜松豊國国際	34	38	72	37	35	72	41	37	78	37 38 75 297
37	田中 泰二郎	野	37	37	74	38	39	77	36	37	73	38 35 73 297
37	高石 謙	小笠原セント	37	37	74	38	34	72	38	37	75	39 37 76 297
37	毛利 敏元	万木城	37	36	73	37	36	73	40	38	78	38 35 73 297
44	草壁 政治	紫雲	38	38	76	37	37	74	37	37	74	39 35 74 298
44	加瀬 秀樹	長良太郎	36	36	72	37	36	73	42	37	79	37 37 74 298
44	土山 錦志	八王子グリーン	39	36	75	36	39	75	36	38	74	36 38 74 298
44	須藤 明	筑波ジンボリー	37	42	79	35	37	72	39	35	74	36 37 73 298
48	牧野 肇裕	メルボルン紳士服	38	38	76	38	37	75	37	39	76	37 35 72 299
48	海老原 清治	第一不動産	38	37	75	39	37	76	37	37	74	38 36 74 299
48	福沢 寿秋	諏訪湖	41	36	77	36	36	72	39	40	79	35 36 71 299
48	矢口 享	フォレスト	42	35	77	38	36	74	38	34	72	40 36 76 299
48	*鈴木 亨	日大	38	35	73	39	38	77	40	37	77	37 35 72 299
53	金井 清一	ダイワ精工	39	36	75	39	37	76	37	37	74	38 37 75 300
53	小林 富士夫	真名	40	37	77	36	35	71	38	37	75	38 39 77 300
53	矢部 昭	アリガゴルフ	37	36	73	37	40	77	38	39	77	39 34 73 300
53	菊地 勝司	オン・グリーン	40	39	79	34	34	68	39	36	75	38 40 78 300

競技

昭和61年度 関東倶楽部対抗決勝競技

順位	氏名	所属	第1ラウンド			第2ラウンド			第3ラウンド			第4ラウンド			合計
			アウト	イン	計										
53	金谷 多一郎	ホテルニューオータニ	36	39	75	40	35	75	42	35	77	38	35	73	300
53	渡辺 章太郎	セントラル	40	35	75	37	36	73	37	37	74	41	37	78	300
59	入野 太	富士観光開発	39	38	77	34	37	71	38	37	75	42	36	78	301
59	若木 進一	習志野空港	38	38	76	38	36	74	38	32	70	43	38	81	301
61	古木 謙二	フリード	38	36	74	35	36	71	47	36	83	38	37	75	303
61	中村 総	南箱根	39	34	73	38	37	75	43	37	80	42	33	75	303
61	森 静雄	真名	38	36	74	38	38	76	39	37	76	41	36	77	303
61	増田 章	佐藤木材	41	34	75	36	39	75	35	41	76	41	36	77	303
61	佐々木 久行	伊香保国際	38	38	76	36	39	75	38	40	78	40	34	74	303
66	近藤 守	八房	39	35	74	41	36	77	39	37	76	40	37	77	304
66	鶴賀 靖生	㈱ニチイ	35	40	75	39	37	76	39	38	77	39	37	76	304
*大友 富雄	塩原 原	38	35	73	40	36	76	40	35	75	41	39	80	304	
69	上原 忠明	加茂	37	36	73	40	35	75	45	38	83	38	36	74	305
70	*深堀 圭一郎	関東ジュニア	37	38	75	42	41	83	41	38	79	312			

(以上決勝進出者)

氏名	所属	第1ラウンド		第2ラウンド		合計		
		アウト	イン	アウト	イン			
水巻 善典	広陵	39	39	78	40	34	74	152
志子田嘉也	水戸G.C	42	38	80	36	36	72	152
金子柱蕃	フリード	39	38	77	37	38	75	152
池内信治	ロイヤルオーネ	39	41	80	36	36	72	152
天野勝	南秋田	37	37	74	38	40	78	152
小川清二	東千葉	41	37	78	41	33	74	152
中瀬芳治	大丸	39	38	77	39	36	75	152
慶葉南雄	鹿野山	38	37	75	39	39	78	153
丸山智弘	浜田釋迦	40	38	78	38	37	75	153
金海成雄	海栄海運	40	36	76	39	38	77	153
外岡忍	フリード	40	36	76	38	39	77	153
石井秀夫	フリード	43	37	80	37	36	73	153
新名和博	日体大	38	39	77	39	37	76	153
山本一明	袖ヶ浦	38	36	74	39	40	79	153
*米山剛	鳥山城	40	38	78	40	35	75	153
*和田雅英	東京五日市	38	39	77	39	37	76	153
*白浜郁雄	南箱根	38	38	76	40	38	78	154
藤田正廣	瓦屋ダイナミック	37	39	76	41	37	78	154
西海英世	機	38	41	79	38	37	75	154
津安史	セントラル	39	37	76	42	37	79	155
吉武恵治	富士ロイヤル	39	40	79	36	40	76	155
河野高義	ケヤク	39	39	78	39	38	77	155
川島和雄	オリビックスタジアム	39	37	76	37	38	77	155
南田敏博	西街	39	36	75	40	40	80	155
関谷通人	千代田トレーディング	41	37	78	38	39	77	155
*庵原一郎	穴戸国際	40	38	78	39	38	77	155
*鶴田憲人	セントラル	43	39	82	38	35	73	155
青	梅	40	39	79	37	39	76	155
石原明	野田太平センター	39	42	81	37	38	75	156
羽川豊	富士ゼッカクス	41	36	77	40	39	79	156
浅尾琢磨	千葉川間	38	37	75	40	41	81	156
文山義夫	カネダ企画	36	38	74	43	39	82	156
室田淳	大袋クリーン	40	36	76	41	39	80	156
石井富男	五浦庭園	39	40	79	39	38	77	156
丸山仁義	絞瀬センター	38	37	75	43	38	81	156
*森永正隆	武蔵	40	39	79	39	38	77	156
*大竹徹	高根	41	36	77	41	38	79	156
田平九一	本宮プロダクション	37	42	79	40	38	78	157
横井ジョウジ	SPジャパン	42	37	79	40	38	78	157

(*はアマチュア)

- 開催期日 昭和61年6月30日
- 開催コース 茨城ゴルフ倶楽部
東コース 6,551メートル
バー72(Bクラス)
西コース 6,336メートル
バー72(Aクラス)

袖ヶ浦チームに凱歌

雨中の大接戦・史上最高の参加チーム

年に一度のゴルフの祭典、いわば所属クラブの代表となった選手たちが、きびしい県の予選を勝ち抜いて関東一の王座を決めるクラブ対抗競技、第33回昭和61年度決勝大会は6月30日茨城ゴルフ倶楽部にシード・チームの茨城を含めた32チームが参集、東(Bクラス・年令制限なし)、西(50才以上Aクラス)の両コースに分かれて華々しく展開された。

1チーム8名(A・B各クラス4名)その各クラス上位3名の計6名のトータル(グロススコア)で順位を争うこの大会、クラブの名誉が大きいかかっているだけに例年各チームの応援も賑やかで、日頃のチームワークをこのときばかりはと結集して臨む本大会は、アマチュア・ゴルファーにとっては夢の祭典でもあり、早朝から繰り出す応援ギラリーの華やかさも大会の特徴のひとつでもある。

梅雨前線による集中豪雨に見舞われ、一時試合を中断するなど大会の円滑な進行が危ぶまれたが、午後5時全選手がホール・アウトして無事大会は終了した。

とくに今年度は予選参加チームが211チームと、これまでにない史上最高のエントリーがあったことからみて、年々クラブ対抗に対する関心が高まって来ているともいえよう。

激戦地区といわれる千葉県の35チームを筆頭に栃木の33チーム、次いで静岡、埼玉と激しい県予選を通過して一堂に会した精鋭32チーム、降りしきる雨にもめげず早朝午前7時には約400名近い関係者でクラブ・ハウス内はすし詰めの状況でその熱気は異常なほど興奮の高まりを感じるものだった。

選手たちを中心に各チームのミーティングがあちこちに見られ、選ばれた選手たちの顔にはクラブの名譽と期待を背負ってこれから始まろうとする熱い戦意を前にどの顔にも緊張がみなぎり異様な雰囲気だ。理事長やクラブの支配人、グリーン・キーパーや休日を利用して応援にかけつけたとみられるキヤディーさんたち、そして選手の家族も揃っての一丸となった応援体制、まさにクラブ対抗ならではの光景であった。

40ミリを越した夜未の雨はいっこうに降り止まず午前10時には瞬間30ミリという激しい雨足に襲われ遂に一時試合を中断した。

中止が延期か、その判断を迫られる競技委員会のあわただしい動きが目につく。新潟や長野、そして静岡地区など遠隔地からの参加チームのことや出場選手のすべてが社会人であるというこれらの特殊性を考えれば、簡単に延期による再試合などという決



優勝した袖ヶ浦チーム

定を出せない委員会の苦悩もあり、大雨でグリーンが使用不能というゴルフにとって最悪事態に直面していただけに、その決断を見るまでに奔走協議した委員会の苦心のはどか伺えた一幕もあったが、『雨天決行』の決断がなされたのが午前11時、各選手は所定の位置に戻り試合は再開された。

コース整備には万全を期したといわれる茨城ゴルフの古賀委員長は『水はけはよいかから雨が小降りになれば大丈夫』と自信満々だったが、コース管理職員を総動員して全コースの状況を緊急チェックさせるなど、巨体をゆさぶって東奔西走していた。

『完全な回復は望めないが試合続行に支障はない』と判断した委員会の結論は結果的にはこの大会を立派に成功させたことになった。

コース内は傘の花が咲いたようにギャラリーたちの応援する姿があちこちに見られ、その声援にハッスルする者、ミスを励ます応援団などにも笑いが起きて、クラブ対抗の和やかな一面にふれ、思わずほほえましく感じたものだった。

今年連続V3を狙う千葉カントリー、その偉業達成に関係者たちの秘められた意気込みが会話のはしばしに読み取れる。2年連続2位、58年優勝以来2度目を狙う袖ヶ浦チームも今年こそは昨年の雪辱をと選手や関係者にその気魄がみなぎっている。

強豪セントラル、岡部チサン、そして今年こそはその霸権を静岡県にと初優勝にかける東名カントリー、ダークホースといわれる富士、土浦などの常連組に混って今年も新進の強力チームが加わりその力が拮抗しているだけに優勝の行方は全く混沌としていて予断を許さない伯仲した接戦となつた。

姉ヶ崎チーム、惜しくも2位

いよいよラスト・スマートだ。1ストロークを争う大詰めを迎えて上位チームは自軍のスコア集計に忙しい。A、B各2名の選手が終ったところでは土浦がトップに躍り出ている。次いで千葉、袖ヶ浦の順でその差は微差だ。雨で思うように選手のスコアが伸びてこない。自軍の本部で集計をまとめる幹部たちの顔にも時折暗い影が走る。セントラルもこの時点で4位をキープしている。千葉カントリーの平



田競技委員長は『うちは5位以内が目標、3連覇などとんでもない』というもの、内心は落ちつかない様子だ。西野理事長を陣頭指揮に後半の追い上げを狙うセントラルも今一步伸びて来ない。「うん、駄目か!」と大きくうなづく西野氏にはまだ捨て切れない最後の2人にかける執念がぞいで見える。

あと数組、土浦、岡部、千葉、袖ヶ浦のせり合いが激しく続く中で東名と姉ヶ崎が肉迫して来た。連絡員が走り、情報が乱れ飛ぶ。『東名だ』いや『姉ヶ崎だ』と俄然2チームがクローズアップされて来た。スコアボードの前はギャラリーたちの傘の群れで見づらいほど最後の一人的選手のスコアで上下する自軍のランクを計算するの大騒ぎだ。

雨で調子を崩す選手、期待された自チームのポイント・ゲッターが崩れゆく中でどのチームも自分のチームのスコアが最後まで読み切れなかった。

『いや袖ヶ浦は阪田がいるから』と他チームはこぞってトップ・アマの阪田を擁する袖ヶ浦の有利を否定しなかつた。がしかし当の阪田選手も前半36のイーブンで折返したもののがバッキンはバターが思うように決らず18番も大きく崩してメダリストの夢も消える始末で、ますます優勝の行方は混沌としていた。

あと2組、東名と姉ヶ崎が並んだ。観衆からドッと歓声が上った。470で東名が『目下トップ』。姉ヶ崎の最終組の選手の出来いかんで東名のチャンスが浮んで来た。『おい!どうなってんだ』と東名の山田八郎氏(東名C.C.競技委員長)が心配そうにスコア・ボードを見つめる。

『姉ヶ崎の佐久間選手が78なら望みなし』とその一喜一憂する動きが目に入る。

競技

『やった、入れたぞ!』姉ヶ崎の応援団らしい。佐久間選手が76でフィニッシュしたという。東名はこの時点で望みを断ち切られた。

残された1人、袖ヶ浦は最終組を回る森泉選手にすべてをかけた。阪田の誤算をなんとかベテラン森に期待する以外になかったのだ。全員が9番グリーンの廻りに集っていた。370m、パー4、2打をバンカーに入れた森選手の3打目のアプローチが『水に災い』されてミス、大きくピンまで残ってしまった。『ボギーでもいいんだ』誰かが『小声』で言った。ダブルボギーならタイ・スコア。『どっちが上なんだ』連絡員が走った。同点タイの場合はBクラスの4人目のスコア上位を取るということで姉ヶ崎の4番目のスコアが気になるところだ。

森のアプローチはピン1mに寄った。入れば優勝。一瞬グリーンは静寂をとり戻した。かすかに小雨が傘をたたく音だけが聞こえる程度だった。

『入った! やった!!』袖ヶ浦チームに歓声があがった。467。1差で姉ヶ崎を突き放したときだった。

『ご苦労さん』『いや、参ったよ』肩を抱き合う選手同士の喜びの輪が広がって行った。

雨中の大接戦、最後の最後まで二転三転した優勝の行方は前評判通り強豪袖ヶ浦チームに凱歌が『あがり』、2年連続2位の雪辱を果たし58年以来、2度目の優勝を飾った。

野本袖ヶ浦チームキャプテンは『どこが勝っても不思議でない最悪のコンディション、悪天候で思ったようにスコアが計算できなかつたが、まさか優勝出来ることは思わなかつた。姉ヶ崎さんが大健闘して1差で勝てたことは幸運だった。うちは阪田が崩れたが、それでも勝利が舞い込んで来たということは、チーム・ワーク以外になにもありません。水沢、佐久間という強力選手を今年は欠いたが、山本、林の両選手がよく頑張ってくれた。』とチーム・ワークの勝利を強調する野本氏だった。

惜しくも準優勝となった姉ヶ崎の芝入キャプテンは『天候は悪かったが素晴らしいコースで試合が出来て満足しています。今年はなんとか5位までに入りたいと念願しての出場だったが準優勝は幸運です。全員の力の結集がこの結果ですから選手を誓めてやりたい。A、B両組が『バランス』とれたチーム編成を心



かけたのがよかったです』と、優勝を逃した口惜しさをじっと耐えていた。

細川護貞関東ゴルフ連盟理事長から優勝の大楯が野本キャプテンに手渡された。そして全参加選手に對して、『雨中の熱戦に挑戦した選手の気魄』を激賞する言葉が贈られ、和やかに表彰祝賀の宴がいつまでも続いた。

ゴルフの祭典といわれるクラブ対抗競技、今年も無事盛大に終つた。勝ったチームも負けたチームも今は戦い終つてみればそこにはゴルファー同士がかわす交歓風景が溢れていた。人と人とのふれ合い、健全なスポーツを軸にして年々広がっていく人の輪、アマチュアリズムが叫ばれる中で、このクラブ対抗が持つ意義はただ単に争うことだけでなく、マナー・ルールを通じて人間形成に役立つものであれば本大会の開催の意義は極めて重要なものであろう。

大会開催を引き受けるコース側の行き届いたコース整備、従業員はじめ多くのボランティアの人たちの献身的協力、運営当局はもとより競技委員たちの対応、今大会ほど雨による中断を余儀なくされ、延期か中止かの決断を迫られた時点での委員会の判断の重大性や参加チームの積極支援、どれひとつして欠けてはならない重要な要素ばかりだが、これらの協調によって今年も盛大に終始したことは何よりも強く印象づけられた大会であった。

(宮元 昭雄)

競技

昭和61年度 関東倶楽部対抗決勝競技成績表

(昭和61年6月30日(月) 於:茨城ゴルフ倶楽部)

優勝 抽ヶ浦カントリー倶楽部 得点467

	氏名	アクト	イン	合計	順位
A クラス	野本 俊夫	42	39	81	
	森 茂	39	39	78	
	山野 邦尚	37	39	76	ベスト6
B クラス	廣 田 哲男	36	42	78	
	山本 幸道	46	37	77	
	鈴木 葉治	37	40	77	1位
C クラス	林 安雄	42	41	83	
					(チーム平均ストローク: 79.13)

2位 姫ヶ崎カントリー倶楽部 得点468

	氏名	アクト	イン	合計	順位
A クラス	芝 入 俊 雄	44	41	85	
	今 間 保 男	41	36	77	
	濱 田 伸 滉	43	36	79	ベスト6
B クラス	有 村 隼 人	41	40	81	
	山 田 英 夫	41	45	86	
	杉 伸 一 尤	37	40	77	2位
C クラス	佐 久 间 義 雄	35	41	76	
					(チーム平均ストローク: 79.88)

3位 東名カントリークラブ 得点470

	氏名	アクト	イン	合計	順位
A クラス	安 田 功	38	39	77	
	伊 藤 伸 秋	41	39	80	
	伊 藤 孝 雄	45	42	87	ベスト6
B クラス	石 川 一 三	39	41	80	
	加 郎 伸 男	37	42	79	
	高 木 伸 桂	39	36	75	3位
C クラス	室 伏 健 二	41	47	88	
					(チーム平均ストローク: 80.63)

4位 関部チサンカントリークラブ 得点476

	氏名	アクト	イン	合計	順位
A クラス	今 木 武 男	43	45	88	
	高 沢 勇	39	38	77	
	六 木 本 勝	40	37	77	ベスト6
B クラス	山 本 勇	42	39	81	
	小 川 透	40	42	82	
	千 野 清 十 郎	38	40	78	4位
C クラス	鶴 島 雄 美	41	40	81	
	福 島 実	40	40	82	
					(チーム平均ストローク: 80.75)

5位 千葉カントリークラブ 得点476

	氏名	アクト	イン	合計	順位
A クラス	鶴 谷 俊 雄	38	41	79	
	村 成 志	41	41	82	
	佐 野 勇	40	43	83	ベスト6
B クラス	岡 戸 行 雄	38	41	79	
	新 村 ヨシオ	40	43	83	
	大 作 清 春	43	44	87	5位
C クラス	竹 井 隆 元	35	42	77	
					(チーム平均ストローク: 80.63)

6位 水戸・ゴルフ・クラブ 得点478

	氏名	アクト	イン	合計	順位
A クラス	中 村 清	41	35	76	
	口 口 喬 三郎	41	41	82	
	根 本 伸	43	43	86	ベスト6
B クラス	富 田 一 義	41	36	77	
	根 本 太 浩	38	40	78	478
	小 河 原 正 直	39	42	81	6位
C クラス	山 西 宏 昭	46	42	88	
	山 横 脊 駿	44	40	84	
					(チーム平均ストローク: 81.50)

7位 セントラルゴルフクラブ 得点479

	氏名	アクト	イン	合計	順位
A クラス	芝 入 俊 雄	42	40	82	
	今 間 保 男	41	36	77	
	濱 田 伸 滉	43	36	79	ベスト6
B クラス	有 村 隼 人	41	40	81	
	山 田 英 夫	41	45	86	
	杉 伸 一 尤	37	40	77	2位
C クラス	佐 久 间 義 雄	35	41	76	
					(チーム平均ストローク: 80.75)

8位 船橋カントリークラブ 得点479

	氏名	アクト	イン	合計	順位
A クラス	大 木 勇	43	42	85	
	小 沢 清	42	43	85	
	井 草 伸	39	39	78	ベスト6
B クラス	藤 田 実	44	42	86	
	重 田 一 郎	38	38	76	479
	岸 本 雄	39	38	77	7位
C クラス	高 木 伸 一	39	42	81	
	佐 久 间 雄 康	40	38	78	
					(チーム平均ストローク: 80.88)

9位 富士カントリークラブ 得点481

	氏名	アクト	イン	合計	順位
A クラス	鷹 保 伸 雄	44	42	86	
	前 川 岳 三郎	39	37	76	
	猪 順 伸	43	44	87	ベスト6
B クラス	山 本 伸 一	41	40	81	
	田 中 文 朗	45	40	85	ベスト6
	岩 田 駿	41	40	81	481
C クラス	竹 田 駿	36	40	76	
	鶴 類 賀 利	38	42	80	
					(チーム平均ストローク: 82.00)

10位 横浜カントリークラブ 得点482

	氏名	アクト	イン	合計	順位
A クラス	山 口 梅 吉	39	38	78	
	土 井 純 誠	40	39	79	
	伊 丹 肇 善	45	40	85	ベスト6
B クラス	猪 順 正	47	41	88	
	竹 田 駿	43	44	87	482
	小 井 健 治	39	37	78	10位
C クラス	鶴 島 雄 実	40	42	82	
	小 井 勇 介	42	40	82	
					(チーム平均ストローク: 81.50)

11位 土浦カントリー倶楽部 得点484

	氏名	アクト	イン	合計	順位
A クラス	中 村 清	41	35	76	
	口 口 喬 三郎	41	41	82	
	根 本 伸	43	43	86	ベスト6
B クラス	富 田 一 郎	41	36	77	
	高 木 義 義	43	42	85	ベスト6
	長 谷 川 弘	44	42	86	484
C クラス	永 田 勝	39	37	78	
	水 田 伸 也	38	41	81	11位
					(チーム平均ストローク: 81.38)

12位 東名厚木カントリー倶楽部 得点485

	氏名	アクト	イン	合計	順位
A クラス	石 岸 雄 二	43	42	85	
	吉 田 清 治	43	43	86	
	鈴 木 雄 一	44	41	85	ベスト6
B クラス	中 田 駿	41	40	81	
	村 伸 一	39	44	83	17位
	長 谷 川 弘	43	43	85	484
C クラス	大 木 勇	42	41	83	
	高 木 雄 一	39	39	78	
					(チーム平均ストローク: 83.25)

13位 沼津ゴルフクラブ 得点488

	氏名	アクト	イン	合計	順位
A クラス	渡 井 岳 志	39	33	72	
	田 中 貞 郎	43	44	87	
	宇 沢 正 道	44	40	84	ベスト6
B クラス	鈴 木 美 姜	36	34	70	
	鈴 木 美 姜	38	36	74	19位
	鈴 木 美 姜	40	42	82	488
C クラス	植 松 和 一	34	31	65	
	植 松 和 一	36	34	70	
					(チーム平均ストローク: 82.38)

14位 立川国際カントリー倶楽部 得点488

	氏名	アクト	イン	合計	順位

<tbl_r cells="5" ix="4" maxcspan="1" maxrspan="1" usedcols

昭和61年度 関東ジュニアゴルフ選手権競技

関東ゴルフ連盟

主催 関東高等学校ゴルフ連盟

スポーツニッポン新聞社

予選競技日 7月22日~24日 3日間

競技会場 ノーザンカントリークラブ・錦ヶ原ゴルフ場(さくら草コース 6,212m パー-72 なの花コース 5,421m パー-71 両コース使用)

参加者総数 男子高校の部 977名

男子中学の部 133名

女子の部(高校・中学)108名

計1,218名

競技方法 18H・ストローク・プレー

予選通過者 男子高校の部 84名

男子中学の部 27名

女子の部 19名

計130名 以上が決勝進出を決める。

決勝進出率 10.7%

(注) S=ストローク
H=ホール 文中

決勝競技日 7月31日(木)

競技会場 武蔵カントリークラブ 笹井コース
6,411m パー-72

競技方法 男子高校の部

第1日目(予選)18H・ストローク・プレー
パー-72

第2日目(決勝)36H・ストローク・プレー
パー-144 通算54H・ストローク・プレー
パー-216

男子中学の部

第2日目 18H・ストローク・プレー パー-72

女子の部 18H・ストローク・プレー
パー-76



左から男子高校の部2年連続優勝の西川哲(日体荏原3年) 中、男子中学の部優勝の白浜浩高(啓明学園2年) 右、女子の部優勝の木村敏美(堀越高3年)

第1日目 快晴 気温31.4°C 微風

厳しい予選ラウンドを通過して来たジュニア達を、待ちうけていたのは、連日30°Cを越す暑さであった。集中力は、この暑さの中でどこ迄続くかがスコアに大きく影響してくる。中学・高校時代が体力的には大変に恵まれていても、暑さという自然との戦いをどのようにするかを考えなければならない。笹井コースの整備はすばらしく、最高の状態でジュニア達を迎えた。

完全に近い舞台の中から、初日の結果は1アンダーの71をマークした、一昨年の世界ジュニアの日本代表を務めた一人、佐藤英明(日体荏原3年)が飛び出した。過去、中学の部では同競技で優勝経験を持っているが、高校に進学してからは長い間、戦績は芳しくなく不調と思い込んでいた。自分の出した71Sに本人が驚いて「もう一步と言う所ですが、今年は高校生活最後の年です。良い思い出を作りたい」と、自分に言い聞かせる様に話していた。内容はアウト2バーディーの1ボギーの35Sで、インに入って、10、12、13番連続バーディーで、通算で4アンダーとした。14番パーで終えて、15番、ティ・ショットを左の林に打ち込み、トラブルとし、上ってダブルボギーとなり、16番も15番のショックかボギーとした。17、18番は気を取り直して、パーで上り、インコースは、パー・プレーの36Sで上り、通算1ア

ンダーの71Sで終った。2位には、74Sで中川利一(明大中野2年)、木俣公寿(日体荏原3年)の2人が続き、無気味な存在としては4位タイにいる西川哲(日体荏原3年)が、4S遅れてピッタリと続いている。同じく予選Bブロックのメダリスト、日下部光隆(横浜3年)、同予選D3位の金子光規(日大高3年)、具滋勲(日体荏原2年)が75S、尚、8位タイには丸山茂樹(日体荏原2年)が続いて可張っている。これらあたりで優勝が争われる事が濃厚となって来た。暑さの中での競技ゆえに、まったく予断を許さない状態となって、尚一層の緊張感が出ていた。予選通過は74位タイの+14Sオーバーの86S迄の84名が、2日目の決勝ラウンドに進出を決めて、第1日目は静かに終って行った。

決勝第2日目、快晴、気温30.8°C 微風

決勝ラウンドは、男子高校の部は36Hの競技の為、昨日の成績順に7時30分スタートを切った。同時に男子中学と女子の部の「開会式」を行い、中井競技委員長より「暑い中ではあるが、健康は自分でしっかりと管理していただき、正々堂々とプレーをしてもらいたい」と激励の言葉を掛けられて、高校の後に続いて中学はアウトコース、女子はインコースより、元気一杯スタートを切っていった。

高校男子の部は、最終組で遅った佐藤英明(日体荏原3年)が、午前中の1ラウンドで80Sをたたき通算で151Sとなり、通算同スコアで丸山茂樹(日体荏原2年)、江連忠(日大桜丘3年)そして、昨年のチャンピオン西川哲(日体荏原3年)の4人



いよいよ暑い熱いゴルフが始まつた。最終組にてスタートを切った優勝候補の西川哲君の見事なティ・ショット(アウト1番にて)

が並んで来た。この4人で大体優勝を争う事になつて来た。同じ組で遅っていれば動きはわかるが、9組目にスタートを切った西川哲と江連忠、この2人は同じ組で、丸山茂樹、佐藤英明は別々なので、この暑さの中で、どこ迄自分のゴルフが出来るかが、勝負を決める結果となるであろう。

決勝ラウンド27Hが終つて刻々と入る情報では、優勝争いは最終組1つ前9組目の西川哲(日体荏原3年)と江連忠(日大桜丘3年)2人の争いになつたが、江連はアウトで40をたたき、西川は36ホールアウトしている。同じく丸山はアウトで41をたたいて脱落し、インを39Sの80、通算231Sで3位タイに入った。2位には西川と優勝を争つた江連が、インを39Sでまとめて79S、通算230Sで入賞は見事な活躍であった。優勝は西川哲(日体荏原3年)で安定したスイングより打ち出されるボールは、ドライバーは適確にフェア・ウェイをキープし、アイアンは見事にグリーンをとらえ、そのうえパットも、ここと言うパットは大体、全部入れていた。その安定度は、さすが本大会のトップであり、最終のインコースは疲れが出たのか、ドライバー・ショットが一度もフェア・ウェイをキープ出来ずにいたが、大きな曲りではなく一寸ラフに入った程度で止まり、林に入らなかつた結果がスコアに結びついて、10、15番をボギーとして、2オーバーの38Sの74Sでまとめて、2年連続のチャンピオンとなった。2位には5Sの差をつけ完全な優勝で、そのプレーぶりは非常に落ち着いたもので、高校生とは思えぬ堂々たるものと感心した。将来の楽しみなプレーヤーである。尚、この決勝で1つの話題を提供してくれたのが、白石誠司(日大高2年)で16番137mのショート・ホールでホールインワンを達成した。ジュニア委員の大竹徹(高根)の目の前で入って確認された。

男子中学の部は、白浜浩高(啓明学園2年)が見事初優勝を飾った。お父さんが白浜郁雄プロで、この日、新潟オープン第1日目トップに立ち親子で話題をまいた。「是非、お父さんにもがんばって優勝し

競技

昭和61年度関東ジュニアゴルフ選手権競技入賞者「全員集合」



て欲しいが……？。しかし、僕が先に勝っちゃった。」

と大喜び。優勝スコアは80S(40、40)で、この距離のある難コースでは非常に良い成績である。もう

1人の中学生は尾崎将司プロの長男、智春(千葉日大一中3年)で、この日もボールが右、左にぶれて大忙しの1日で85S(42、43)で9位タイと、ジュニアの戦いは、白浜に凱歌が上った。ゴルフの先生は勿論お父さんで、一番頼りにしているのも「お父さん」と、くったくのない2人の好少年であった。

女子の部は予選通過者19名で、昨年の日本ジュニアの優勝者、須賀みお（日体桜華女子高3年）をトップに、それを追うジュニア競技の優勝経験を持つ木村敏美（堀越高3年）、それに今年の関東女子ゴルフ選手権2位入賞の「久し振りに出て来た大型新人」と言われた丸谷京子（大宮武蔵野高3年）の3人の争いと言われていた。この中で木村敏美は、インコース・スタートで、2バーディー、1ボギー、1ダブルボギーの41S、須賀42S、丸谷43Sで1Sの勝負であった3人は、一緒に最終組で廻っているので勝負の結果は一打一打わかってのプレーであった。アウトに入って木村がすごい当りを出して来た4バーディー、1ボギーの35S、計76Sのバーブレーでフィニッシュ。続いてアウト39Sで上った丸谷に6Sの差をつけて、ジュニア選手権女子の部で、2度目の優勝を獲得、「ボールが非常に良く飛んでくれました」とボールの飛びを強調していた。

女子の部優勝の木村敏美(堀越高3年)の18番のティ・ショット
男子高校の部は、70位タイの+46Sオーバー—262S迄の73名、男子中学は9位タイ+13Sオーバー—85S迄の11名、女子の部、9位タイ+15Sオーバー—91S迄の10名。以上が日本ゴルフ協会主催の日本一のジュニアを決める、日本ジュニアゴルフ選手権へのパスポートを手にした。舞台は霞ヶ関カントリークラブに移って、暑い中、熱い戦いが続いていくのである。

夕闇のせまる笹井コースで国旗が降ろされ、表彰式と閉会式が行われ勝者達に優勝杯が渡され、入賞者にメダルが首に掛けられ、その名誉を称えて本年度のジュニア選手権は、何一つ事故も無く、無事に終った。各々にすばらしい思い出を残して。

この大会も回を重ねるごとに、内容が非常に充実して来ているのが嬉しい。学校当局もゴルフを教育の一環として取り入れ様とする努力が見え、これを指導する各校の先生方も大分、ゴルフに対する勉強が出来つつある様に思えた。全国でジュニアゴルフの育成に、この様に努めれば、将来は非常に楽しむものとなるであろう……。(石川博英)

昭和61年度 関東ジュニアゴルフ選手権決勝競技成績表

(高校男子の部)

氏 名	学校名/学年	1R	2R	3R	合計
		1	2	3	
1 西川	日体 莲原 (3)	75	76	74	225
2 江九	大稼 丘云 (3)	76	75	79	230
3 遠山	日体 莲原 (2)	76	75	80	231
4 佐下	横田 洪 (3)	75	79	77	231
5 佐下	日体 莲原 (3)	71	80	61	232
6 井金	模 模 (3)	73	79	77	234
7 木口	大 大 (3)	75	78	81	234
8 石佐	坂 舜 (1)	77	82	78	237
9 久川	目 黒 (2)	81	75	82	238
10 田代	松 户 (3)	81	80	76	239
11 田代	日体 莲原 (3)	72	74	81	227
12 田代	日体 莲原 (3)	83	79	79	240
13 田代	日体 莲原 (3)	82	80	79	240
14 田代	横 横 (1)	80	83	79	242
15 中木	日体 莲原 (2)	78	78	86	242
16 三芦	日体 莲原 (2)	83	75	84	242
17 仁白	日体 莲原 (2)	81	79	83	242
18 仁白	日体 莲原 (2)	72	77	79	245
19 武家	明 大 (2)	78	79	88	245
20 佐松	中 大 (2)	77	79	89	245
21 佐松	日 野 (2)	83	79	83	245
22 佐松	和 学院 (3)	82	83	81	246
23 佐松	培 玉 (2)	78	85	83	246
24 佐松	玉 宋 (3)	76	86	84	246
25 小沢	日 本 (3)	82	85	79	246
26 加藤	東京学館宿院 (1)	82	84	81	247
27 加藤	結 城 第一 (3)	75	84	84	247
28 加藤	自 政 (2)	84	82	81	247
29 加藤	法 政 (3)	84	81	81	247
30 加藤	水 二 (3)	84	81	83	247
31 加藤	水 二 (2)	84	81	83	247
32 加藤	水 二 (2)	83	83	82	248
33 加藤	日 体 莲原 (2)	75	82	91	248
34 加藤	日 体 莲原 (2)	81	82	86	249
35 加藤	道 人間 (3)	81	81	87	249
36 加藤	水 城 (2)	81	82	87	250
37 加藤	水 城 (2)	81	87	82	250
38 加藤	王 宋 (3)	83	77	90	250
39 加藤	日 大 (3)	81	80	89	250
40 加藤	横 大 (3)	81	84	86	250
41 安井	明 野 (3)	85	81	85	250
42 安井	泉 山 (2)	85	81	86	250

(中学男子の部)

順位	氏名	学校名/学年	アウト	イン	合計
1	白浜 浩高	啓明学院 (2)	40	40	80
2	五十嵐 克典	祐 (3)	40	41	81
3	田中 真一	双葉台 (3)	41	40	81
4	内藤 淳	成蹊 (2)	42	40	82
4	久保谷 健	慶應義塾市立北 (3)	38	44	82
4	佐々木 博文	天羽 (3)	39	43	82
6	長谷川 芳	上尾市立西 (3)	41	43	84
7	南 本	見明川 (3)	41	43	84
9	尾崎 篤義	千葉日大一 (3)	42	43	85
9	平井 公典	青山学院 (3)	44	41	85
9	竹井 新昌	川間 (3)	39	46	85
12	宮本 雄勝	熟海 (2)	43	43	86
12	日野 雄大	調布市立高丘 (2)	44	42	86
12	足立 智明	浜高 (3)	41	45	86

(女子の部)

順位	氏名	学校名/学年	アウト	イン	合計
1	木村 敏美	堀越 高(3)	35	41	76
2	丸谷 吉道	大宮武蔵野高(3)	39	43	82
3	須藤 真みお	日体昭和女子高(3)	42	42	84
4	小久保由	玉井 中(3)	42	44	86
5	遠藤 邦也子	堀越 高(3)	43	43	86
6	北川 道通子	堀越 高(2)	43	45	88
7	能登 里香	西巣鷹中(3)	42	47	89
8	久松 由里子	埼玉王高(3)	41	48	89
9	村上 みち代	羽谷第二中(3)	43	48	91
10	薄田 理恵	羽谷第二中(2)	46	45	91

順位	氏名	学校名/学年	1R	2R	3R	合計	
41	高 橋	宗 廉	小 松 原 (3)	84	82	86	252
44	吉 正	庄 光	喜 (1)	86	84	83	253
44	立 山	光 広	堀 体 茂 原 (3)	80	85	85	258
46	小野寺	誠 実	日 大 (1)	81	81	92	254
46	相 場	誠 実	日 大 (2)	81	89	84	254
46	登 並	仁 春	堀 王 宗 (2)	85	83	86	254
46	高 田	章 光	明大中野八王子 (1)	78	84	92	254
46	原 岸	川 朝	伊 東 (1)	84	81	89	254
46	横 木	本 一	駒澤 学 間 (3)	83	86	85	254
52	中 初	見 孝	伊 東 (3)	86	87	82	255
54	森 神	森 一	東 山 (3)	79	89	87	255
56	神 横	岡 山 田	日 大 (3)	81	91	84	256
56	秀 横	新 田	東 農 大 (2)	85	84	87	256
59	久 水	知 名	日 大 (2)	86	87	84	257
59	浜 久	史 知	日 大 (3)	85	83	89	257
59	萬 岩	幸 人	日 大 (3)	86	87	85	258
62	小 岩	倉 義	日 大 (2)	83	88	87	258
62	宮 舟	雅 良	日 大 (2)	81	86	92	259
62	河 本	義 司	日 休 茂 原 (2)	86	83	90	259
62	宮 門	白 霞	日 駒 塚 國 (3)	79	88	92	259
66	向 久	間 光	日 川 (2)	83	84	92	259
66	久 久 久	間 光	日 川 (2)	85	92	83	260
66	向 久 久	間 光	日 大 (1)	84	86	90	260
70	向 既	既 雄	日 大 (3)	86	87	88	261
70	既 雄	雄 雄	湯 和 学 間 (3)	81	86	95	262
70	既 雄	雄 雄	吉 川 (3)	85	83	94	262
70	既 雄	雄 雄	日 大 桂 丘 (3)	85	88	89	262
70	既 雄	雄 雄	喜 滋 学 國 (1)	83	86	93	262
74	高 木	健 達	堀 王 宗 (2)	85	92	86	263
75	木 細 鈴	人 美	日 大 (2)	89	89	89	264
75	鈴 木	美 淳	日 休 黒 (2)	85	90	89	264
77	鈴 山	鈴 木	明 大 野 (2)	85	91	89	265
78	鈴 木	昌 純	宇 郡 宮 南 (3)	86	89	92	267
78	鈴 木	昌 純	日 大 (3)	79	94	94	267
78	鈴 小	義 純	日 教 (3)	85	95	87	267
78	志 志	忠 志	日 大 (1)	85	92	90	267
83	伊 丹	川 仁	王 国 学 國 (3)	83	93	92	268
84	吉 田	義 伸	千 葦 工 産 (3)	84	90	95	269
84	吉 田	義 伸	桂 (3)	86	91	95	272

順位	氏名	学校名/学年	アウト	イン	合計
15	河守 計	吉田 (3)	40	49	89
16	岩本 康彦	蒲原 (3)	44	46	90
16	伊東 勝也	日大 (3)	41	49	90
16	片山 雄也	下館市立南 (2)	49	41	90
19	中島 雄行	八幡 (2)	46	46	92
19	菊地 尚貴	若林 (2)	48	44	92
21	水野 宏司	早稲田実業 (3)	45	48	93
21	岡田 貴謙	越谷市立東 (3)	47	46	93
21	渡部 大誠	練馬 東 (3)	48	45	93
24	北村 大一	千葉日大 (1)	48	46	94
24	田中 大高	成田 高付 (2)	47	47	94
24	新富 周	駒込 (3)	46	48	94
27	伊勢 誠	伊勢原 (2)	43	52	95

順位	氏名	学校名/学年	アウト	イン	合計
11	佐 田 佳津江	高崎北高 (3)	43	49	92
11	村 田 貴 美	頸城女子高園高 (3)	43	43	92
13	是 久 尚 美	観音女子高 (3)	46	47	93
14	福 井 里 佳 佳	大 久 保 中 (2)	45	49	94
14	中 島 佑 斗	足利学園高 (1)	47	47	94
14	福 島 沙 和 佳	東京女子学院高 (2)	48	46	94
17	山 田 千 佳	城 西 高 (2)	47	56	103
18	宮 田 愛 子	那珂 刑 高 (2)	49	56	105
19	守 座 蘭 子	多々良 中 (1)	49	57	106

夏季ジュニアゴルフ教室 大成功裡に終わる

第1教室 8月18日(月) 参加者54名 桜ヶ丘
C.C. 東京都多摩市連光寺2985番地

資格は18才未満、男女、1R100S迄

第2教室 8月20日(水) 参加者72名 東京ゴ

ルフ倶楽部 埼玉県狭山市柏原1984

番地

資格は第1教室と同じ

初心者教室 8月29日(金) 参加者66名 ノー

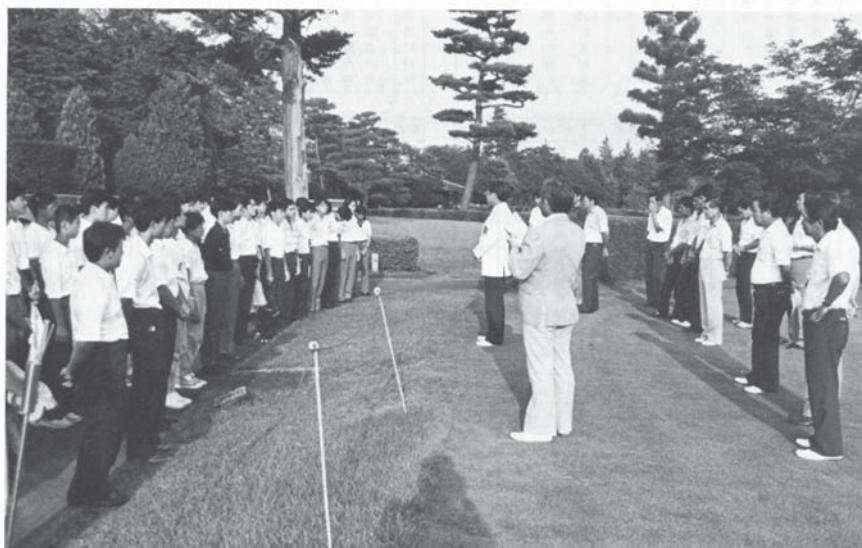
ザンC.C. 錦ヶ原ゴルフ場 埼玉

県大宮市塙本町2-22-1番地

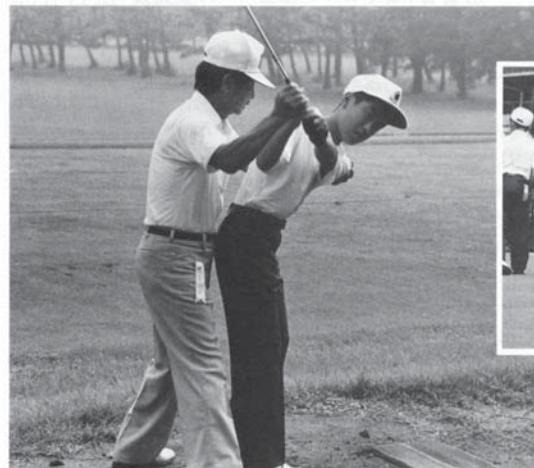
「ジュニアで初心者のみ」

此の夏も大成功で、3ヶ所の会場で無事にジュニアゴルフ教室が終った。ふり返れば、昭和56年度より数えて6年目、当連盟の事業の一つとして、学校の冬・春・夏休みを利用して、我が国のゴルフ界の将来を背負うジュニアゴルファーの育成を最重点に置いて、ジュニア達の教室が毎年開かれている事が一般に知れ渡って来ている。其の目的は、ジュニア

ゴルファーに対して、正しいゴルフの知識と、規則、礼儀、行儀等を徹底し、同時に技術の向上を目指す為に、当委員会で綿密に討議し、又、今迄の貴重な経験から得たノウハウを基本にして、各教室で実施する教程を作製し、それを時間割にして、極めて正確に実行に移されて行く。又、昨年から日本プロゴルフ協会の奉仕活動の一部として、毎回の教室にプロゴルファー5名の派遣があり、技術面の徹底した指導を仰ぎ、さらに関東学生ゴルフ連盟より、元ジュニア出身の学生の大勢の協力を、当連盟委員会に積極的に戴いて、其の結果、内容は誠に充実したものになって来た。連盟委員一人一人は、アマチュアのトップゴルファーとして、ゴルフに対する実績も、又、競技経験の豊富な指導的立場にある方々であり、ゴルフに対する情熱も、其の姿勢も模範であるばかりか、ジュニア達に対するきめこまかに気くばりにも、愛情がなければ出来ない格別なものを持った人達で構成されているのが非常に良い。



教室のすべての練習が終って斎藤委員長より「この様に楽しくゴルフが出来た事をここにいる先輩達に、又、家に帰ってお父さん、お母さんに感謝の気持を言葉に出して有難うと言おう…」と教えて締めくくった



日本プロゴルフ協会より派遣されたプロゴルファーより、どしどし悪い点の指摘がなされ、見る見るジュニア達のスイングは良くなっていく

開会に当って斎藤委員長は、「普通では皆さんはプレーの出来ない此のすばらしいコースを、ジュニア達の為に、メンバーの好意によって提供して下さった倶楽部に対して心より感謝し、今日一日を、有意義にゴルフの勉強をしてもらう事を希望する」と挨拶があつて教室が始まった。各班にわかれ、指導員の紹介もあり、1時間一寸を練習場と、練習グリーンにわかれ、各々日頃のゴルフの悩みをプロに質問をあびせていた。目標に対してのかまえ方、また、ちょっととグリップを、肩の廻りを注意されただけで見違える様な球を打てる様になって喜んでいた。

待望のラウンドに入り、4人1組で、それにプロ1名と委員会学連が1名で構成され、プロは各自に技術を専門に、3日ずつ一緒に、全組を廻って丁寧



ジュニア達全員セルフバッグでいよいよラウンドへ。指導員はプロ1名、ジュニア委員1名の計2名、きめこまかに指導するために…



この様な場合、ボールは何處へドロップするかを現場で指導する大鷲副委員長

ルール Q&A

解答者：日本ゴルフ協会ルール委員長 浜口五郎

Q-1 ストロークプレーのグリーン上で、球を間違ってパットをしてしまった。

A、B、Cの3選手がともにグリーンに球を乗せ、マークしたうえで、夫々の球をキャディに拭いてもらつた。キャディは3バッグだったから、3者共有のキャディになっていた。拭いてもらった球を手渡されたAがまずパットした。つぎにBがパットしようとした。ところが手渡された球が自分のものではないことに気づいた。キャディにその旨を伝い、自分の球にかえようとしたが、もう一つはCの球だつた。念のため、すでにパットしたAの球を見ると、それがBの球だった。即ちAはBの球を「誤球」したわけである。この場合、Aは如何？

A-1 Aは、キャディから手渡されたBの球でパットをストロークしてしまったので、誤球のプレーとなり、2打罰となります。

自分の球で、もう一度パットをやり直さなければなりません。マッチプレーではそのホールの負。

誤球のプレーとは、インプレーの球以外の球をいいますが、他人の球やロストボールを打つなどに限らず、ティ・グラウンドからプレーした球が、規則で許されたり、罰を課せられて新たにプレーした球以外の球をプレーしたとき、誤球のプレーとなります。誤球の場合は、必ず打ち直しをしないと競技失格の罰となります。

プレーヤーは自己の球をプレーする責任がプレーヤー自身に課せられています。

参考—6—5、12—2

Q-2 ショートホールでAが第一打を打ったところ、グリーンをオーバーしラフに入った。OBかもしれない。あるいはロストボールになるかもしれない。あるいはセーフの可能性も多いし、ロストにならざるにすむかもしないと思いつく。ティから離れてグリーンへ向った。ところが、もう一度思い直してティに引き返し、別の球を打った。現場に行くとグリーンをオーバーしていたがセーフだった。Aは最初に打った球と打ち直した球どちらを「正球」

にしたらよいか、判断しかねたので、2つの球をプレーして、2つともストロークの数は3でホールアウトした。この場合の正しいスコアは？

A-2 暫定球は、時間節約のために、別の球をプレーするもので、初めの球を捜しにでかける前にプレーしなければなりません。(27-2) 「でかける前に」とは、通常ホールに向って歩き出し、ティ・グラウンドを離れた時点をさすものと思考されます。

Aが“もう一度思い直してティに引き返し、別の球を打った”のは、暫定球とはなりません。

したがって、打ち直しの球は、ストロークと距離の間のものに打たれた球として、第三打目の正球となってしまい、初めの球は紛失球となります。

これに関連し、「暫定球をプレーする時期について」JGAの裁定があるので、質問は省略し、回答を以下に紹介致します。

『(回答) 暫定球の規則(R27-2a)はプレーの時間を節約するために制定されたものであり、「初めの球を捜しにでかける前」即ち「球を打ち終わって歩き出す前」と解することが最も厳正である。

イ.しかし、公正の理念(R1-4)に従って考えれば、数歩若しくは5~6m程度を歩き出した後であっても、之を「捜しに出かける前」と見做すことは、本規則の精神に違反しないものと判断できる。

ロ.之に反し100mも前進した後になって宣言したからといって暫定球のプレーを認めることはR27-2aの乱用であって、斯かる場合は戻って打った第2の球がインプレーとなるのは当然である。』……
JGA裁定(1984~85年)日本ゴルフ協会。12~13頁より……。

Q-3 あるホールで、Aはサブグリーンに乗せたので、球を拾い上げ、ドロップしたうえで、プレーし、ホールアウトしたが、競技特別規則以外は日本ゴルフ協会ゴルフ規則が適用されることになっていたし、特別規則にはAが処置したことには該当するような規則は定められていなかった。Aは最初に打った球と打ち直した球どちらを「正球」

ルール Q&A

したがってAは誤所からのプレーをしたことになり、一般的の罰2打を付加して、そのホールのスコアとした。このAの措置は正しかったか？

A-3 日本特有のサブグリーンは、ゴルフ規則に規定がありません。

25条の「目的外のグリーン」は、サブグリーンを指しているようにみえますが、『現にプレーしているホール以外のグリーン』と定義されていますので、サブグリーンは「目的外のグリーン」には当たりません。

したがって、サブグリーンについて特別の規則(ローカル・ルール)がない場合は、サブグリーンは、スルーザグリーンとなるわけです。

この場合、サブグリーンに乗った球を拾い上げ、サブグリーン外にドロップしたことは、スルーザグリーンの球の拾い上げとなり、同時にリプレースの違反となります。

拾い上げに、たとえマークをしたとしても、20-1の違反として、ストロークプレーでは2打付加となり、マッチ・プレーではそのホールの負となります。

理事会・委員会

加盟俱楽部殿

昭和61年9月17日

関東ゴルフ連盟

理事長 細川護貞

昭和61年度第3回理事会議事録

61年度第3回理事会討議事項を下記の通りお知らせします。

日 時 昭和61年9月17日(水) 正午

場 所 ホテルニューオータニ

出席者 細川理事長、武内副理事長、相山、藤原、福田彰、木村、古茶、古賀、松浦、松野、森井、中井、斎藤、佐藤 各常務理事、青木、福田富市、河西、勝山、北村、小宮山、小山、小林金太郎、松本、佐久目、滝沢、竹井、山崎 各理事

決議事項

1. 62年度主催競技日程

武内コース選定委員長より、別添日程案にもとづいて説明があり、未定の関東アマ選手権第3ブロックについては、決定次第連絡の旨報告があり全員了承した。

2. 競技委員会

(1)先にJGA競技委員会より研究課題として提案のあった「日本アンダーハンディキャップ選手権競技実施要項(案)」について、過日、当委員会にて検討の結果、

①この競技の趣旨には賛成する。が、この競技の目的がJGAハンディキャップ普及を第一とするならば、競技委員会がイニシアチーブをとるのでなく、HDCP委員会が主催すべき性質の競技である。

競技委員会として運営に協力を求められれば喜んで応ずるつもりである。

②仮に実施するとしても、参加クラブ数の多いKGAとしては準備期間もあるので、来年度よりの実施は無理である。

③実施にあたっては、競技方法・内容等について細かく検討する必要がある。

④この競技について、加盟クラブがどの程度関心を持っているか、現時点では不明なので、贅否をたずねるアンケート調査をお願いしたい。

理事会・委員会

その結果をみて次のステップを考えたい。以上
の4点を当連盟競技委員会の意見としたと中井
委員長より説明があり、全員異議なく了承した。
(2)その他
JGA競技規則に一部改正あり、今後はこの新し
い競技規則により各競技のローカル・ルールを
作成して欲しい旨、委員長より説明された。

3. 月例委員会

スケジュールにもとづき、各開催クラブの協力を
得て、滞りなく予定を消化して居り、1月より9
月迄の参加人員合計は、1,226名で昨年比266名(男
子180名、女子86名)24%増と増加していると、松
野委員長より報告があった。又、来年度の開催コ
ースについても、案を作り折衝している旨の説明
あり、全員了承した。

4. ジュニア委員会

関東ジュニア選手権予選競技の参加数は1,217名
と昨年対比横這い(3名減)だったが、参加資格に
「原則として100ストローク以内でラウンド出来る
者」という限定を設けたこと、高ゴ連の先生にもマ
ナー・進行等の役目を中心にコースに出て、KGA
委員と同行して貢ったことなどから、スマーズな
運営が出来たと、斎藤委員長より報告された。
又、参加人員の増加が予想されるので、来年は、
例えば、日本ジュニア参加者の予選免除等も検討
したいとの説明があり、全員了承した。

5. 後援競技承認の件

(前回理事会以降の依頼案件……1件)
「第5回日刊アマ・関東ダブルスゴルフ選手権」
昨年同様の後援承認依頼であるとの武内副理事長
の説明あり、全員承認した。

—— 報 告 ——

1. 関東オープンゴルフ選手権

武内委員長より、本年度の関東オープンゴルフ選
手権大会が無事終了したとの報告と、開催会場の
セントラルゴルフクラブのご協力ご努力に対する
謝意の表明があり、入場者数こそ8,600余と多くは

なかったが、近来稀にみるAO対決、更にNまで
加わる熱戦の展開となり、全国のゴルフファンを
して、茶の間のテレビに釘づけとしたようだ、大
成功だったとの説明がなされた。

昭和62年度 関東ゴルフ連盟競技日程表

月	日	曜	競 技 名	開催コース
5 11	月	木	関東女子選手権予選	横 梅
	月	金		横 梅
18 22	月	木	第1ブロック 五 日 市	横
	金	土		横
5 19	木	木	第2ブロック 入 間	横
	火	火		横
5 26	木	木	第3ブロック (未定)	横
	火	火		横
5 28	木	木	第4ブロック 千 葉 美 風	横
	木	木		横
5 29	木	木	第5ブロック 宍 戸 国 際	横
	金	木		横
6	1	月	関東女子選手権決勝	小 川
6	1	月		小 川
6	1	月	東京 地 区 多 摂	横
6	1	月		横
6	1	月	埼 王 地 区 鳴 里	横
6	1	月		横
6	2	火	千 葉 地 区 熊 ヶ 岐	横
6	2	火		横
6	25	木	神 垂 川 地 区 麻 野	横
6	1	月		横
6	3	水	第1地区 麻 生 港	横
6	26	火		横
6	1	月	茨 城 第 2 地 区 土 浦	横
6	1	月		横
6	11	木	第1地区 熊 ヶ 岐	横
6	11	木		横
6	11	木	第2地区 宇 郡 宮	横
6	11	木		横
6	11	木	群 馬 地 区 関越ハイランド	横
6	11	木		横
6	11	木	静 岡 地 区 富 士 小 山	横
6	11	木		横
6	11	木	長 野 地 区 長 野 国 邸	横
6	11	木		横
6	11	木	新潟 地 区 新 潟	横
6	11	木		横
6	9	火	関東アマチュア選手権決勝	東 名
6	10	水		東 名
6	11	木		東 名
6	30	火	関東俱楽部対抗勝	取 手 新 日 本
7	21	火		横
7	22	水	関東ジュニア選手権予選	ノーザン錦ヶ原
7	23	木		横
7	29	水	関東ジュニア選手権決勝	武 鹿
7	30	木		横
9	3	木	関東オープン選手権	総 武
9	4	木		横
9	5	木		横
9	6	木		横
9	7	火	関東シニア選手権予選	成 田 国 際
9	8	火		横
9	29	火	関東シニア選手権決勝	風 山
9	30	水		横
10	19	木	関東クラント・シニア選手権	相 横

次回理事会 11月20日(木) 正午

ホテルニューオータニ

以上

月例競技成績表

[61年6月月例] 参加：男子106名 6月27日(金) 於：東京ゴルフ俱楽部

(男子)

順位	氏 名	ク ラ ブ	第1ラウンド		合計
			アト イン	アウト	
1	坂 田 哲 夫	袖 ケ 浦	33	36 69	142
2	宮 辰 夫	習 志 野	39	36 75	144
3	佐 藤 英 明	新 千 葉	37	38 75	145
3	和 田 雅 英	東京五日市	41	33 74	146
5	杉 山 直 也	紫 塚	38	35 73	147
		(以上入賞)			
6	内 麻 正 幸	桜 ケ 丘	37	38 75	148
6	和 田 博	東京五日市	38	34 72	148
6	大 竹 敦	高 標	38	35 73	148
6	鳴 田 審 人	新 千 葉	38	36 74	148
6	鈴 木 亨	青 梅	38	37 75	148
11	石 井 孝 一	上 結 富 士	37	38 75	149
11	小 林 勝 美	立 川 國 際	42	36 78	150
14	古 木 真 二	新 千 葉	38	38 76	150
14	西 川 一 哲	千 葉 美 風	39	34 73	150
17	荒 井 準 人	宍 戸 国 際	40	39 79	151
		(以上入賞)			

順位	氏 名	ク ラ ブ	第1ラウンド		合計
			アト イン	アウト	
17	志 田 幹 夫	大 洗	36	40 76	151
17	種 口 淳	千 成	38	38 76	151
17	小 川 透	岡 部 チ サン	35	41 76	151
21	杉 田 努	GMG八王子	37	37 74	152
21	室 伏 健 二	東 名	37	38 75	152
21	得 能 三 郎	楊 木	37	38 75	152
21	奥 延 通 康	草 城	38	40 78	152
25	小 林 正 義	東京五日市	37	40 77	153
25	岡 田 光 正	風 川	38	38 76	153
25	金 俊 俊	東 京 国 際	39	39 78	153
25	石 井 伸 直	富 士 平 原	39	39 78	153
25	大 山 四 郎	錦 ケ 谷	37	39 76	153
25	太 田 再 勇	大 相 横	38	34 72	153
25	星 野 正 治	東 蔵 野	38	38 75	153
25	松 井 滋	鳴 月 ・ 鳥 沼	39	37 76	153
25	森 永 正 隆	武 藏	40	38 78	153
25	加 藤 伸 光	甘 楽	37	39 76	153
25	石 渡 喜	富 士 平 原	36	40 76	153

コース・レート 72.3

参考：女子56名 6月6日(金) 於：桜ヶ丘カントリークラブ

順位	氏 名	ク ラ ブ	アト イン		合計
			アト	アウト	
1	吉 沢 キ ミ 子	セ ン ト ラ ル	39	37 38	114
2	原 田 香 里	鳥 山 城	40	40 39	119
3	金 田 正 子	大 厚 木	41	41 38	120
		(以上入賞)			
4	森 田 晴 美	東 筑 波	40	41 40	121
4	喜 多 麻 子	鳥 山 城	39	40 42	121

順位	氏 名	ク ラ ブ	アト イン		合計
			アト	アウト	
6	三 木 恵 美 子	富 士	42	40 40	122
6	渡 辺 恵 子	高 標	39	40 43	122
6	木 村 敏 美	藤 岡	40	43 39	122
9	野 上 千 里	藤 岡	42	40 42	124
10	田 村 千 代 子	錦 ケ 谷	39	42 45	126

コース・レート 70.0

[61年7月月例] 参加：男子65名 7月18日(金) 於：江戸崎カントリー倶楽部(東・西コース)

(男子)

順位	氏 名	ク ラ ブ	第1ラウンド		合計
			東 西 計	東 西 計	
1	中 山 章	日 大	38	38 76	146
1	中 山 章	大 洗	39	37 76	146
3	志 田 幹 夫	大 洗	37	38 75	147
4	鈴 木 軍 治	袖 ケ 浦	40	37 77	148
4	鷹 田 明 宏	新 千 葉	36	39 75	148
		(以上入賞)			
6	室 伏 健 二	東 名	38	35 73	149
6	本 山 年 夫	矢 板	38	37 75	149
8	鶴 田 審 人	青 梅	38	38 76	150
8	和 田 博	東京五日市	37	35 72	150
8	石 井 孝 一	上 結 富 士	38	35 73	150
11	奥 延 通 康	茨 茨 城	37	36 73	151
11	鹿 産 一 郎	セ ン ト ラ ル	37	37 74	151
		(以上入賞)			

順位	氏 名	ク ラ ブ	第1ラウンド		合計
			東 西 計	東 西 計	
11	五十嵐 雄 郎	東京五日市	40	35 75	151
11	太 田 再 勇	大 相 横	38	38 76	151
15	中 野 弘 治	美 葉	39	39 78	152
15	新 村 シ オ ジ	千 葉	40	35 75	152
15	鶴 井 義 朗	船 橋	39	37 76	152
15	佐 久 間 敏 二				

月例競技成績表

[61年8月月例] 参加：男子86名 8月22日(金) 於：我孫子ゴルフ倶楽部

(男子)

順位	氏名	クラブ	第1ラウンド アウト イン 計	第2ラウンド アウト イン 計	合計
1	上代 修二	中山	33 35 68	39 37 76	144
2	小川 透	岡部チサン	37 38 75	37 35 72	147
3	太田 再勇	大相模	40 37 77	35 36 71	148
3	宮 段夫	習志野	36 40 76	37 35 72	148
5	室伏 健二	東名	38 36 74	37 38 75	149
5	和田 博	東京五日市	38 40 78	37 34 71	149
5	高安 信行	セントラル	36 36 72	38 39 77	149
	(以上入賞)				
8	志村 幹夫	大洗	40 37 77	38 35 73	150
9	吉田 八郎	長竹	38 37 75	39 37 76	151
10	丸山 茂樹	土浦	42 37 79	38 36 74	153
10	山内 宗広	東京五日市	40 36 76	35 42 77	153
10	鳴田 審人	青梅	40 38 78	38 37 75	153
10	小池 茂	宍戸国際	36 38 74	37 42 79	153
14	鈴木 良治	袖ヶ浦	38 40 78	38 38 76	154
14	堤越栄治郎	相模原	41 35 76	41 38 79	155
14	新村ヨシオ	千葉	38 39 77	42 36 78	155
17	本山 年夫	矢板	40 39 79	41 37 78	157
17	石井 孝一	上総富士	38 43 81	38 38 76	157

コース・レート 72.3

(注) 7月プレー・オフは中山賀氏要権の為、志村幹夫氏が優勝いたしました。

参加：女子46名 8月8日(金) 於：鎌ヶ谷カントリークラブ

(女子)

順位	氏名	クラブ	東	中	西	合計
1	渡辺 恵子	高根	39	39	36	114
2	尾間 久江	武藏	39	39	38	116
3	小野岡 たき子	大乗野	40	39	42	121
	(以上入賞)					
4	勝田 良子	東ノ宮	41	40	41	122

コース・レート(東・中・西) 104.9

お知らせ

クラブ代表者変更のお知らせ

クラブ名	クラブ代表者
館山カントリークラブ	(新)田島義郎 (旧)西山正行 (旧)鈴木保司
愛蘭シックス	(新)織戸總三郎
ハンドレッドクラブ	(旧)小林聰夫

倶楽部住所変更のお知らせ

修善寺カントリークラブ

(新) 田方郡修善寺町日向字池ノ上965-127
(旧) 田方郡修善寺町日向907

理事長変更のお知らせ

飯能ゴルフクラブ	(新) 庄野五一郎 (旧) 東谷傳次郎
下秋間カントリークラブ	(新) 朴木 実 (旧) 鈴木 駿吉
サニーカントリークラブ	(新) 小川邦夫 (旧) 岩田義泰
鹿野山カントリークラブ	(新) 前田利三郎 (旧) 前田久吉